

1 「平成30年7月豪雨」への対応

■「平成30年7月豪雨」への対応

- 「平成30年7月豪雨」は、各地で平成最悪とも言われる甚大な被害をもたらした。
- 糸島市では、人命に関わるケースや住宅倒壊などの被害は出なかったものの、がけ崩れ等の土砂災害をはじめ、道路損壊や浸水被害、河川溢水などが各地で発生した。

[特に大きな被害]

- ◎白糸の滝付近 →土砂による多目的トイレ全壊、道路崩落等
- ◎牟田溜池 →堤防法面の亀裂、地滑り

[災害発生時の被害状況] (7月7日時点)

- ◎人的被害： 0件
- ◎住家被害： 8件（一部損壊：1件、床下浸水：7件）
- ◎非住家： 3件
- ◎道路： 11件
- ◎河川： 5件（溢水：3件、施設・設備損壊：2件）
- ◎土砂災害：31件（がけ崩れ）
- ◎避難者：182世帯、355人（ピーク時：7月6日21時）

[その後の被害取りまとめ状況] (7/17時点)

道路・河川：87箇所、溜池：4箇所、水路：26箇所、農道：6箇所、
農地：4箇所、井堰：4箇所、林道：383箇所

※その他、漁港・海岸への漂着物、農作物への被害などが確認されている。

- 市では、担当者が前日の7月5日から警戒にあたり、6日早朝に災害対策本部を設置、翌日7日の午前中まで対応にあたった（第3配備時：233人）



↑白糸の滝周辺の被害状況(左:7/9撮影、右:7/6撮影)



↑牟田溜池の被害状況(7/9撮影)



↑災害対策本部→

2 ICTを活用した災害対策の導入

■「地域防災システム」の導入

➤災害対応に「**地域防災システム**（G空間情報収集システム、防災業務支援システム）」を導入

- ・九州大学大学院 工学研究院教授 三谷 泰浩（みたに やすひろ）氏が開発したシステム
- ・webと地図データを活用したシステムで、災害情報の随時入力、集約、共有が可能。
- ・災害対策本部以外でも、リアルタイムで最新情報、経過を確認することができる。
- ・H30年度から、同システムを平時の業務にも活用しながら災害対策業務に導入していく。

